



去年の年末に、中国で未知のウィルスが猛威を振るっていると言うニュースを見た記憶がありますが、対岸の火事と思つて油断しておりました。世界は繋がっていると云う事ですね。

霊仙三蔵

良啓

三蔵法師と言えば、西遊記でお馴染みの僧侶です。この三蔵法師は、中国に実在した超エリート僧侶でした。中国仏教の修業内容である三蔵（経・律・論）全てを極めた者は、数千年の歴史の中でも数名しかいません。その中に日本人がいた事はほとんど知られていません。

お名前は、**霊仙三蔵**。近江国（今の滋賀県）に生まれ、幼い頃より天才と言われ、奈良の興福寺で学び、お大師様や最澄と共に遣唐使として、中国大陸に留学しました。かの地でも活躍し、時の皇帝憲宗の寵愛を受け、三蔵を賜りました。霊仙は大元帥法と言う中国仏教秘伝の教えを授かり、日本へ伝えようとしますが、国外に流失することを嫌った憲宗帝が帰国を許さず、大陸で没したと言われています。後年、入唐した天台宗の円仁などが、霊仙三蔵の弟子から大元帥法を授かり、日本へ広める事が出来ました。霊仙の想いが果たされた訳ですね。

実は、この大元帥明王は本山東寺にも祀られています。境内の端にひっそりと建立されていて、説明書きもほとんど無く、初めは良く分かりませんでした。たまたま寺内図書館にあった霊仙三蔵に関する本を読み、とても驚きました。

どちらも天才と言われ、同じ遣唐使団であったお大師様と霊仙三蔵ですが、歴史の表舞台に立ったお大師様と無念の内に外国で没した霊仙三蔵。似たような二人の似ていない結末。

これもまた歴史の醍醐味なのかも知れません。いつか霊仙三蔵が晩年を過ごした五台山に参拝したいです。



東寺大元帥明王堂

組踊 de 仏教

【執心鐘入玉城朝薫と

神宮寺除夜の鐘つき】奈緒子



今回は、沖縄の方にはお馴染みの沖縄伝統芸能「組踊」の演目、【執心鐘入】のご紹介です。「組踊」は、琉球音楽にのせて古語のせりふと踊りで、約300年も演じられてきた国指定重要無形文化財です。演目の中には僧侶が出てくるものが多く、その中の演目【執心鐘入】もその一つです。この作品の初演は1719年。この頃から仏教が盛んであった事が伺えます。

【あらすじ】美少年の中城若松は、首里へ向かう途中日が暮れてしまい、一人で留守番をしていた若い宿の女に、泊めて貰うよう頼みます。一度は断った女ですが、美少年で有名な若松に憧れを抱いていたので、若松を泊めました。女は若松への思いを遂げようとはしますが、若松は頑なに拒否。ならば共に死のうと若松に詰め寄る女に、身の危険を感じた若松は**末吉の寺**に逃げ込み、**座主（住職）**に助けを求めます。座主は若松を**鐘の中に隠し、寺の小僧達**に番をさせ、「寺に入れるな」と言いつけます。追ってきた女を、**小僧達**は追い出そうとしますが失敗。寺に入れてしまします。寺中若松を探す女のただならぬ気配に気付いた**座主**は、若松を鐘から連れ出し逃がします。逆上した女は、鐘にまわりつき、鬼に変身。しかし、**座主と小僧達は法力**によって鬼女を説き伏せ、鎮めます。」

さて、**今年も神宮寺除夜の鐘つきの時期**になって参りました。

今年は**新型コロナ対策の為、完全予約制**とさせて頂いております。

皆様とスタッフの安全のため、ご理解の程宜しくお願い致します。

お電話・寺務所窓口にて受付も始まっておりますので

ご興味ある方は、是非ご予約下さい。

さて、執心鐘入では何やら物騒な寺の鐘ですが、神宮寺の鐘には鬼はおりませんので、

ご安心下さいませ。



画像：国立劇場おきなわ